

平成29年10月16日
国立大学法人弘前大学

報道関係各位

**青森県つがる市にて絶滅危惧種 I A 類ガシャモクを発見
国内 2 箇所目の現存する自然個体群、国内の分布北限を大きく更新
【弘前大学 白神自然環境研究所】**

つがる市の1湖沼において環境省が定める絶滅危惧IA類（CR）に指定された植物「ガシャモク（ヒルムシロ科）」が新潟大学教育学部 志賀 隆 准教授，首藤光太郎 研究員，市民グループ津軽植物の会，弘前大学白神自然環境研究所 山岸洋貴 助教による合同チームの調査によって確認されました。これまでの国内の北限とされていた場所を500km以上更新する新産地の発見です。

これまで自然集団は福岡県北九州市の一湖沼のみで知られており、今や幻の水草となっています。

※ガシャモクは、関東地方、琵琶湖、九州に分布していたとされる植物です。中でも、特に関東地方では肥料に用いられるほど多く生育していました。しかし、わずか100年間で水質汚濁により全国のほとんどの集団で絶滅してしまいました。現在、自然集団は福岡県北九州市の一湖沼のみであり、国内からの絶滅が懸念されています。そのため、北九州市の一湖沼で保全活動が、北九州市に次いで最も近年まで本種の生育がみられた千葉県の手賀沼周辺では、自然集団再生の取り組みが行われています。つがる市でもまだ1湖沼でしか生育が確認されておらず、地域の豊かな自然環境を含めて積極的に保全していく必要があります。

【シンポジウムの開催】

2017年12月11日（月）17：00より、つがる市生涯学習交流センター「松の館」交流ホールにてこの発見について、また津軽半島の自然に関する公開シンポジウムを開催いたします。講師には、第一発見者である新潟大学教育学部の首藤光太郎氏のほか、北九州市においてガシャモクの保全活動に関わっていらっしゃる方などを招待し、ご講演していただく予定です。おおよそ2時間ほどを予定しており、入場無料です。多くの方のご参加をお待ちしております。

【お問い合わせ先】

（所 属）弘前大学白神自然環境研究所

（役職・氏名）助教 山岸洋貴

（電話・FAX）0172-39-3706

（E-mail）hyama@hirosaki-u.ac.jp



Figure 1 ガシャモク



Figure 2 ガシャモクの花



Figure 3 ガシャモクが新たに発見された沼の様子